教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践名(実践年度)	意思表出に向けたICT機器の活用(平成30年度)
参加する 授業に ついて	教科名等 (該当する教科名等を選択。当 てはまらない場合はその他を選 択し、次の単元・題材名の欄に 記入。)	□国語 □社会 □算数/数学 □理科 □生活 □音楽 □図画工作/美術 □家庭/技術·家庭 □体育/保健体育 □道徳 □外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間 ☑特別活動 □自立活動 □各教科等を合わせた指導 □その他の教科 □その他()
	単元·題材名	デジタル絵本を楽しもう
	授業の目標	・自分のタイミングでスイッチを押して、デジタル絵本を楽しむことができる。
	観点別学習状況の 評価の観点 (教科の特性により設定した観点 がある場合は「その他」を選択し 記載。)	□「知識·理解」 ☑「技能」 ☑「思考·判断·表現」 ☑「関心·意欲·態度」 □その他()
	自立活動の要素	□健康の保持 □心理的な安定 □人間関係の形成 ☑環境の把握 ☑身体の動き ☑コミュニケーション
学習 (集) の実態 子ども の実態	学部・学年・人数	□通常の学級 □通級による指導 □特別支援学級 □特別支援学校
		□就学前 □小学生 □中学生 ☑高校生以降 □特定されない
		高等部1年 3名
	対象の障害	□視覚障害 □聴覚障害 ☑知的障害 ☑肢体不自由 □病弱·身体虚弱 □言語障害 □自閉症 □情緒障害 □LD(学習障害) □A DHD(注意欠陥/多動性障害)□その他
	子どもの課題 (特性・ニーズ)	□聞く □読む ☑見る □話す □書く ☑運動と姿勢 □計算する □推論する ☑日常生活活動 ☑社会性・コミュニケーション □不注意 □多動性ー衝動性 □覚える・理解する □時間的・空間的・人的交流の制約 □その他
		 ・発語がない為、自発的にコミュニケーションをとることが難しい。 ・意思表出の手段を増やしたい。 ・身体に不自由があり、可動域が限られている。
ICT活用 について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。	・PC ・TV ・HDMIケーブル ・デジタル絵本 ・USBスイッチインターフェースプラス ・棒スイッチ、ボタンスイッチ等
	活用のねらい (概要)	A コミュニケーション支援(☑A1意思伝達支援 □A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(□B1情報入手支援 ☑B2機器操作支援 □B3時間支援) C 学習支援(□C1教科学習支援 ☑C2認知発達支援 □C3社会生活支援) ・コミュニケーション能力の育成 ・自分が見たいタイミングにスイッチを押してデジタル絵本を見る。 ・デジタル絵本はクリックすると音声と画像が同時に流れるので、因果関係を意識づけしやすい。
	活用方法	 デジタル絵本が入ったPCとTVを繋げる。 ・USBスイッチインターフェースプラスに棒スイッチを繋ぐ。 (棒スイッチが押されるとマウスのクリックと同じ動作を行うことができる。) ・棒スイッチは生徒の実態に合わせて、押しやすい場所に設置する。
効果·評価	ICTを活用した授業での 子どもの様子や変容お よび授業の評価	・スイッチを押すと画面上のデジタル絵本が動きだすので、因果関係が分かりやすい。 ・自分のタイミングでスイッチを押すことができるので、生徒の自発性を引き出すことに期待ができる。
資料	図・写真・表等 (生徒の写真は個人情報公開の 確認を取っているものとする。)	図1. USB Switch Interface-Plus 図2. 活動の様子